

議 事 概 要

1 開会

- ・事務局から開会の挨拶を行い、配布資料の確認と欠席委員の報告、委員の変更を行った。

【配布資料の確認】

- ・会議次第
- ・資料 1 : 平成 21 年度 環境教育関連事業の実施結果
- ・資料 2 : 札幌市環境教育基本方針推進委員会設置要綱 (案)
- ・参考資料 エネルギー環境教育のための施設見学・意見交換会
- ・参考資料 「かんきょう元気通信」 第 2 号
- ・参考資料 「かんきょう元気通信」 第 3 号
- ・参考資料 広報さっぽろ 3 月号 (かんきょう元気通信特集)
- ・参考資料 「かんきょう元気新聞」 第 2 号
- ・参考資料 「かんきょう元気新聞」 第 3 号
- ・参考資料 環境教育関連施策・事業一覧 < 2009 年度版 >
- ・参考資料 こども環境サミット札幌参加者からの返事 (アメリカ)
- ・参考資料 こども環境サミット札幌参加者からの返事 (フィリピン)

【欠席委員の報告】

- ・三木委員は欠席。

2 議事 (1): 環境教育関連事業の実施状況について

エネルギー環境教育のための施設見学・意見交換会

- ・参考資料「エネルギー環境教育のための施設見学・意見交換会」に基づき、2010 年 1 月 15 日に実施した、エネルギー環境教育のための施設見学・意見交換会について、事務局から説明を行った。

【質疑応答・感想等】

- ・小学生が見てもいろいろと興味を持たれたようだったので、子どもたちにももっと実際に見せてあげたいなと思いました。その場で知識を得るだけではなく、例えば、一度見たことが何かの機会にテレビでやっていたりしていたら、「ああ、ここに行ったことある」とか、何か興味のきっかけになるかなと思いました。(高坂委員)
- ・説明を聞いて、こういうシステムなのかと何とか理解をしようとは思ったのですが、これを子どもにどう伝えるか、これは難しいなと思って見せていただきました。(白崎委員)
- ・エネルギーということを感じるような行き先もこれからいろいろ組み合わせて、今回はガスが中心だったのですが、電気とガスみたいな感じでいろいろ考えられるとすごくいいのかなと思いました。(宮森委員)
- ・教材化という視点では、白崎委員もいろいろご検討なさっていますので、意見交換会の中でそのことをいろいろと聞かまして非常に勉強になりました。また、教育大もこれからエネルギー教育をやる可能性もありますので、ぜひご指導いただきたいと思います。(森田副会長)
- ・これからの世代はエネルギーというのが特に重要ですので、どういうスタンスで、どういうものを、どういう考え方で教えていくかということについての勉強会みたいなものを相当しなければならぬのではないかなと思いました。(小林会長)

その他実施事業

- ・資料1、参考資料に基づき、事務局から説明を行った。
 - <人材の育成>
 - ・環境教育リーダー制度、環境保全アドバイザー制度
 - ・総合的環境副教材の教員用手引書の作成
 - <情報の共有・活用>
 - ・環境プラザホームページ
 - ・かんきょう元気通信
 - ・かんきょう元気新聞
 - ・環境教育関連施設連携事業の実施
 - ・環境教育関連施策・事業一覧（平成21年度版）の作成
 - ・子ども環境サミット札幌の参加者へ手紙の送付【フォローアップ事業】
 - <プログラムの作成>
 - ・総合的環境副教材の修正・教員用手引書の作成
 - <機会づくり・場づくり>
 - ・校外学習用バス貸出
 - ・環境教育施設バスツアー
 - ・環境教育へのクリック募金
 - ・環境プラザにおける総合学習支援
 - ・環境未来カップ2009
 - ・さっぽろ子ども環境コンテスト

【質疑応答・意見等】

<人材の育成>

（事務局からの説明に対し、意見等なし）

<情報の共有・活用>

[かんきょう元気通信・かんきょう元気新聞]

- ・かんきょう元気新聞の方は物すごく和気あいあいと、つくっている方も楽しくて、それが紙面にもあらわれ、読む子どもたちも楽しんでくれればいいなというふうに思っています。（高坂委員）
- ・校正のときにはメールでやりとりしながらさせていただいているのですが、指導室の渋谷先生の校正に、毎回、もうすごく感動しています。（宮森委員）

[環境教育関連施設連携事業の実施]

- ・この環境教育の関連施設とバスの貸し出しを結びつけたのは非常にいいなと思ったのです。学校にも既に届いていまして、私の学校もすぐ申し込みました。今まで、バスはバス、環境施設は学校でまた調べるといふ形だったのですが、今回、モデルコースでこれとこれとこれぐらいの時間でできますよというものを提示いただいたので、恐らく、たくさんの学校が申し込むのではないかなと思われまます。（米倉委員）
- ・校外学習用モデルコースの中の半分くらいは、私どもが環境省から予算をもらいまして実際に実行した場所なのですね。一般の方を対象にしてやっても、子どもを対象にしてやっても、どちらもそれなりの成果があって、大変いいところです。七十何校じゃなくて150校でも、2年に一遍とか、3年に一遍、自分の学校に回ってくるようなローテーションを組めるような予算の使い方をやっていただければなと思います。（藤田委員）
- ・校外学習用モデルコースは大人向けにも非常にいいコースだと思います。ですから、市民のための

札幌市の環境教育として非常にうまく動くように、例えば、システムチックに環境プラザに何々コースで何日と申し込めば使えるとか、そういうふうになると、今度はバスがセットではなくても、自分たちでも施設を利用していこうかなと思えますので、このコースを利用してもうちょっと事業が拡大していけば非常にすばらしいというふうに思いました。(森田副会長)

- ・モデルコースの中の上水道のコースの中でちょっと欲張って、何か一言、その建物を指さすだけでもいいですから、藻岩浄水場でも水の流れて発電している(小水力発電)んだよという話があったら、すごく、へえっという感じになるのかなというふうに思いました。(宮森委員)

[環境教育関連施策・事業一覧(平成21年度版)の作成]

- ・2008年度版は環境教育関連施策の進行管理と達成目標及び環境指標の2項目が入っていたのですが、今回はその2項目がありません。なぜこのつくりを変えたのかということについて質問したいなと思っていました。というのは、この委員会自体のお役目として、環境教育基本方針に基づく施策の進捗状況や効果の評価と検証という役割があるので、これとは直結しませんが、進行管理をどのように評価されて次の事業に展開していくのかというところをまとめた表記が今回はなくなっているわけで、その部分が気になっています。(丸山委員)
- ・今年度版につきましては、基本方針に基づいての事業ですので、基本方針の概要を取り組みの四つを初めとしたものでまとめております。当然ながら、もともとの達成目標あるいは進行管理につきましては2008年度版で書かれておりますので、そこからは全く変更はないという中で、年度で変わった部分で今回修正をかけたものを2009年度版ということを出させていただいているということです。ただ、目標の方向性とか、そういったものには修正がないので、2008年度版の引き続きというような位置づけで作成したところであります。(事務局：環境局 高田)
- ・実は、これだけの部署をこれだけまとめるとなると、皆さんがお考えになっている以上にこの事務というのは大変です。実は、庁内的にも事務がすごく膨らんでしまっている状態なものですから、やはりカットするものはカットして、定期的に時間で出せるものは出していくというふうに一部割り切りをさせていただいています。そういった全体的な動きの中でカットするというのも、ぜひご理解をお願いしたいなというふうに思います。(事務局：環境局 宮田)

<プログラムの作成>

[環境教育プログラム]

- ・前回の会議で小路委員からご発言があった環境教育プログラムの今後のことについて、具体的に改定する、しないは別として、まず、周知するためにもワーキングはもう1回か2回は開いていく必要があると思いますというようなご趣旨のご発言をいただいています。それに続いて、藤田委員から、環境教育プログラムについて、区単位でもいいし、小さい単位でもいいから、研究発表みたいな発表会をやって実践を見てもらうことが物すごく大切なので、ぜひやっていただきたいというご発言をいただいて、私も同じように感じておりました。これに対して、具体的なご回答はなかったかなというふうに理解したのですがいかがでしょうか。(丸山委員)
- ・環境教育プログラムについては、「学校教育の重点」の平成22年度版の冊子の中に、札幌らしい特色ある学校教育ということで、特に真ん中にどんと環境というものを位置づけました。その中に、札幌市環境教育基本方針、環境教育プログラムを踏まえ、学習の成果が家庭や地域での生活に生きて働くように、身近な環境から地球規模の環境までを対象に省エネ行動、ごみ減量・リサイクル、水と緑を守るという三つの柱を示しながら、年間指導計画に基づき、子どもの発達段階に応じた具体的な活動を実施するというので、発達段階に応じた環境教育の推進を1番目に設定させていただいております。また、新卒採用される教員に対しての研修の中で、札幌らしい特色ある学校教育というものがあるので、その中でもこのプログラムを説明していきたいと思えます。(事務局：教育委員会 田口)

[総合的環境副教材の修正・教員用手引書の作成]

- ・中学校としましては、副教材の方は活用していないというか、中学校向けのものがないものですから、小学校をうらやましく思っております。(小路委員)
- ・ごみについては、大幅にルールが変わりましたので、内容が変わりますね。あと、一番は、4月に1・3・5年生となる児童に配付してもらうときに、これを2年間使うということで、児童に渡してそのまま家に持って帰ってなくしてしまうのではなくて、できれば、2年間保管していただいて、3年生が4年生になったときにもごみとか水のことを学習できるように、そんなふうにしっかり保管されるような働きかけができればなと思っております。(白崎委員)

<機会づくり・場づくり>

[さっぽろこども環境コンテスト2009]

- ・(コンテスト審査員長として)大変楽しい仕事だったのですが、大変難しい仕事でした。最優秀、優秀、特別とついていますが、ほとんど僅差で、全部同じと言ってもいいくらいだと思います。いわゆるコンテストという趣旨で始まったこともあるのでしょうけれども、何らかの名前をつけて、結果的にみんな何かの賞はもらえたというようにされていくといいのかなと思いました。また、私はこのコンテストは初めてだったのですが、子どもたちはすごく真剣に取り組んでいます。自分たちの未来のことを考えているのだと思うので、我々大人はしっかり受けとめてやっていかないといけないのだと改めて認識させられました。ぜひ、これからも続けていただければと思います。(大野委員)
- ・特に、ことしは市長への報告会をしたのがすばらしくよかったですね。ああいう部屋に子どもたちが入って市長が直接聞いてくれたということはすごい励みになると思っていますので、今後もやっていただけたらと思います。(小林会長)
- ・一つ質問させていただきたいと思うのですが、評価の視点というのは、この参加者、子どもたちに公開されているというか、こういう視点で評価していますということはみんなが共通に理解している項目なのでしょうか。(宮森委員)
- ・審査の項目までは公開していません。ただ、大野委員の方からもございましたが、当然ながら、当日の評価に際して4項目の評価の視点というものがございます。1番目に、継続して活動でき、周囲の子どもたちや大人たちへ広がり期待できるかどうか、2番目としましては、子どもたちが活動の意義をよく理解しているかどうか、3番目としましては、環境保全とのつながりに着目したオリジナリティーのある活動であるかどうか、4番目としましては、活動による環境保全への効果が大きいかどうかです。この4項目につきまして、それぞれの観点で採点、評価していただき、その総合得点で優秀な団体を決めている形になっております。(事務局：環境局 高田)
- ・どのような形がいいか、今、具体的にはちょっとご提案できないのですが、どういう観点で評価をされているのかということを示していく、見せていくということは、まさに美香保小学校がPDC Aサイクルで賞をゲットしたのと同じように、継続して見直していくために必要となる批評だと思っております。ですから、そのあたりをうまく共有できるような仕掛けがあるといいかなというふうに思います。(丸山委員)
- ・コンテストに出ている非常に大切なのは、小・中・高と環境に対する取り組みは脈々と続いているということ子どもたちが認識できることだと思います。ここに出る中学校も一工夫していますので、小学校から見れば非常に熱い、こういうステップにいけるのだなということが見えてくると思うのです。同じように、ことしは高校の発表がありましたね。中学校のほかの子どもたちに聞いてみたら、あの高校の発表がすごく刺激になったと言うのです。ですから、中学校で途切れるのではなくて、何かの形で、高校や、さらにその上のすばらしい取り組みを見せる場が必要なのだ、しかも、紙上ではなく、生で見る必要があるのだなということを強く感じました。(小路委員)

2 議事(2):「札幌らしい特色ある学校教育」の推進に係る「未来の札幌を見つめる【環境】検討プロジェクト」報告書について

・今年度検討プロジェクトを立ち上げて検討してきたが、報告書はまだ完成していなかったため、口頭で説明(以下のとおり)。(事務局:教育委員会 田口)

- ・1点目は、平成22年度に新しい事業として札幌エコスクール宣言事業というものに取り組んでいきます。これは、各学校で今まで行われてきた独自の活動があると思いますが、これを学校が自分たちのエコプランとしてエコ宣言をする、それを教育委員会がエコスクールとして認定します。そして、この認定校については教育委員会の環境のホームページで広くお示ししていきます。
- ・2点目は、環境教育をいろいろやっていますが、同時に、まだまだ教師自身が環境教育についての認識が甘いところがあるのではないのか、いろいろな教科でやっているけれども、それは教科の学習としてとらえているだけで、環境教育という視点ではなかなかとらえていない部分があったりするという課題があります。そこで、学習指導要領の全面実施に合わせて、環境教育の全体計画というものを何とか各学校で作成できないかということで、これを目指していきたいと考えています。
- ・3点目は、きょうも環境教育関連施策・事業一覧というのが出ていますが、学校には本当にいろいろな情報が入っていています。たくさんあり過ぎてどれを選択したらいいのかわからない。いろいろな企業からも入りますし、大学からも入りますし、行政機関からも入ります。つまり、情報がなくて情報が収集しにくいのではなくて、余りにも多くてどれを選んだらいいのかわからないというような部分もあるので、その支援策を整理して学校が使いやすいようなものを教育委員会の方でこれから整理していきたい。例えば、この関連事業一覧の中から学校に関するものだけ抜いて学校に示していくとか、環境局でやっていることもきちっとわかるような形で示していくことが必要ではないのかということが報告書の中に盛り込まれています。
- ・最後には、札幌市環境局との連携についてということで、きょうも学校と関係する事業が環境局の方からたくさん示されていますけれども、このあたりをはっきりわかるような形で報告書の中にしっかり位置づけて、学校の方にも、環境局と教育委員会が連携しながらさまざまな事業に取り組んでいるということをこの報告書を通して示していきたいというふうに考えております。

【質疑応答・意見等】

- ・教員養成の立場からですが、非常に多くの卒業生が教員として巣立っていきまして、実際に環境教育以外のいろいろな事業開発やいろいろな実践ということで、悩みとかいろいろなことを聞く機会が多いのですけれども、今、お話にありましたように、いろいろな情報がある中で、現場の先生が本当に一番頼りにしているのはやっぱり教育委員会なのですね。ですから、今のお話にありましたように、やっぱり教育委員会の方でも適切にまとめて道筋をつけていただくというのは、もう本当に必須のことだなと感じております。(森田副会長)

2 議事(3):札幌市環境教育基本方針推進委員会設置要綱の改正について

- ・札幌市環境教育基本方針推進委員会の設置要綱について任期を2年に改め、現委員については、来年度もそのまま引き継いで延長して、来年度末までの委嘱期間とさせていただきたい旨、説明。(事務局:環境局 佐竹)

【質疑応答・意見等】

- (事務局からの説明に対し、意見等がなかったため、承認)

2 議事(4): その他

【質疑応答・意見等】

- ・会議開催日程について、卒業式を終えてからにお願いできれば出られるのですが、卒業式の前はやっぱりいろいろなことがありまして非常に厳しいということをご理解いただいて、卒業式の後にお願いできればと思います。皆様のご都合もあるのですが、どうぞよろしくお願いいたします。(米倉委員)
- ・来年度につきましてはそのようにご配慮したいと思います。(事務局：環境局 高田)

3 閉会

(会長から閉会の挨拶)

- 以上 -